

KAS

# 風の谷 びゅう **VIE**

社会福祉法人 風の谷  
相模原市中央区田名7236-3  
発行責任者 政野 光廣  
042-760-1033  
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



地域交流バザー開催!!  
たくさんのご協力とご参加  
誠にありがとうございました!!



【2016年 夏号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センターより	P 3
◇特集「第17回地域交流バザー」	P 4・5	◇自閉症について	P 6
◇ヘルパー便り・グループホーム便り	P 7	◇後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109  
毎月15日発行 購読料1部 15円

## ネットワークで支える

去る6月5日に、当法人にとって恒例の地域交流事業である「地域交流バザー」が、今年も多くの方たちのご支援やご協力を得て盛大に開催されました。その大切な事業が無事終了したことにホッと一息ついたその日の夕刻、あるご利用者のお母様が亡くなられたとの一報が入りました。かねてより病氣療養中であることを承知してはありましたが、自閉症のお子様二人を残しての旅立ちはさぞ心残りであったろうと推察しております。

私たちはこの間、担当の支援者を中心にそのご利用者の短期入所利用について、法人内はもとより、他機関・他事業所との調整、ご自宅や他事業所への送迎体制の確保、また通夜・告別式への参列のサポート等に係らせていただく中で、改めて痛感させられたことがありました。それは「ネットワークで支える」ことの意義でありその大切さです。

やまびこ工房は本年7月で開所18年を迎えます。包括的な支援の有効性を感じとりながら歩んだ18年と言えるかもしれません。包括的な支援、つまり、本人を包み込むように複数のサービス（通所、短期入所、移動支援、行動援護、居宅介護 etc.）があり、それを各人が必要により組み合わせる地域生活を送るというものです。その有効性は確かにゆるぎないものではありませんが、当法人だけで全てをカバーすることは到底できません。

そこで、今回のように短期入所を利用した支援の長期化が想定されるような場合は「ネットワークで支える」との発想が重要になります。工房担当者が起点となりケア会議を開催し、ご家族を中心に関係機関、関係事業所の方たちに集まっていただき、まずはご家族の意向をもとに状況を共有し分析して、それぞれの立場からできることを出し合い、支援計画を組み立てていくこととなります。それぞれの事業所の持っている「強み」を生かし「弱さ」をカバーし合うことで支援を継続していきましょうとの発想です。やまびこ工房は通所事業がベースなので、職員の勤務体制から平日の短期入所には何とか対応できますが、週末の短期入所となると継続的に対応するのは困難です。週末を含めての短期入所は、やはり職員体制のしっかりした「強み」がある施設入所支援事業所に頼らざるを得ないのが現状であり、ご協力いただいている事業所の皆さんには感謝の気持ちしかありません。

実は、こうしたネットワークを活用した支援事例が当法人でも多くみられようになりました。その背景には、病氣や様々な事情により家庭基盤の弱まったご家族が残念ながら増えていることも影響しているように思われます。

ご本人を中心にご家族としての絆を大切にしながら、しかしあくまで、ご家族に過重な負担がかからないように、当法人が核となりながら、地域生活を継続できるようネットワークで支えることを意識して、他機関や他事業所等との連携強化に努めてまいりたいと存じます。

今後ともさらなるご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

常務理事 中島博幸

## 相模原自閉症支援センターより

4月14日(木)テレビを見ながら夕食を食べていると、速報が流れ、地震が起きたことを知った。九州で大地震ということに驚いた。というのは、九州出身の自分の父親が上京してまず驚いたのは、地震だったと言っていたからだ。それだけ九州は地震がないものと思い込んでいた。そんなことを考えつつ、4月から通所を始めたAさんのことが気になり出した。

Aさんは、去年の8月に相模原市障害者支援センター(松ヶ丘園)から安定して通える事業所を探しているとのことで相談があった方で、初めて来所頂いた時は機嫌が悪く、2回目の来所は拒否されてしまった。

「ご本人が拒否されているわけですから、通所は無理ですね」と答えるのは可能だったと思う。しかし、初めて会った時の印象は忘れがたく、気持ちが落ち着いた後の丁寧な受け答えに、本来のAさんの人柄はそこにあると考えていた。さらに、松ヶ丘園の相談員の熱意もあり「どうしましょうか?」と言われて、「わからない」と答えるのは自閉症支援の禁句なので「わからない」以外の言葉を出す習慣もあり、出てきた言葉は家庭訪問であった。ただし、Aさんに会いに行くのと断られるので、まずはお母さまに会いに行くことを目的とし、おそらく聞き耳は立ててくれるだろうから、話に加わってくれたら、次の段階に行けると考えていた。毎月、相談員と家庭訪問を行い、Aさんが紅茶を淹れて出してくれた時は、信頼を得られたかなと感じた。

年末に外出先でトラブルを起こしてしまい、お母さまから相談を受けたときは「ピンチはチャンスです」と答えてみたが、実は自分が他の利用者の親からよく言われている言葉で、実際、年が明けるとAさんは柔らかな手で薬師丸の両手を握り「よろしくお願いします」と頭を下げられた。

4月15日(金)の朝、Aさんから電話あり、「心配でいけない(通所できない)」との連絡があり、お休みされた。翌週も来れないのでは?と心配していたが、通所され、受注作業に取り組んでくれた。そしてこんな言葉を発していたという。「給料が出たら、被災者のために全額寄付したい」と。

相模原自閉症支援センターにおける特定相談支援事業は平成28年3月をもって廃業し、4月より中央区に相模原自閉症支援相談室(やまびこ工房内)、南区に相模原南自閉症支援相談室(第二やまびこ工房内)を特定相談支援事業所として、相談事業を行っている。このように事業所を分けた理由の一つとして、モニタリングを行うことにある。私のように支援と相談を兼務すると、支援している方のモニタリングができないからである。さらに、市からの通達によれば、サービス等利用計画案作成やモニタリングに際し、居宅等への訪問によるアセスメントを行うべきとのことであった。今までは、効率的に行うため日中活動事業所にてアセスメントを行っていたが、推奨されることではないとのことである。福祉サービスの一連の手続きの中に居宅等への訪問を入れていくことは、サービス利用される方を理解する点においてとても良いことだと思うが、実際にそれが可能かは別問題である。

一方、Aさんの家庭訪問は福祉サービス外でのことである。福祉サービスを利用する前の丁寧なアセスメントは重要であるし、納得して福祉サービスを利用して頂きたいが、そのための制度が整ってなく、挫けそうになることがある。それだけにAさんの言葉は重く、自分が何度も受け止め続ける言葉であろう。

(薬師丸)



# 第17回 地域交流バザー

6月5日(日)に風の谷後援会主催、やまびこ家族会協力のもと地域交流バザーが行われました。開催回数を重ね今年で17回目を迎えました。小雨が時折降る空ではありましたが、日頃お世話になっている地域の方々や関係者の皆さま、大勢の方が参加して下さいました。日頃の感謝とともに、バザーへのご理解とご協力心より感謝申し上げます。

準備から当日まで家族会や、厨房委託をしているキュービック相模原さん、多くのボランティアの皆さんに支えられ、風の谷職員も一つになり迎えた当日は笑顔と和やかさのあるアットホームな雰囲気に包まれた地域交流バザーになりました。

風の谷の利用者の皆さんやご家族、やまびこ工房・第二やまびこ工房が、地域の皆様との交流を通して地域に根付きながら、たくさんの皆さんに温かな応援団になって頂いていることを実感させて頂いた一日になりました。



『いらっしやいませ〜』あちらこちらで元気のいい掛け声に活気がありました。食べ物コーナーは、焼き鳥・焼きそば・うどん・味噌おでん・焼きおにぎり・フランクフルト・鯛焼き・ジュース行列ができるコーナーもあり、完売の店舗も出ましたよ。

こどもコーナーでは、かわいらしいパンダのポップが目をついたボーリングゲーム。小さなお子さんからストライクが出ると、あたたかな拍手と歓声があがり周りもほっこりでした。



バザー品は、雑貨品からタオル等の販売も大忙しの盛況ぶり。園芸コーナーは、たくさんの生花や植物、夏にむけてゴーヤ等の苗を販売し大人気。近所で畑をしている方から毎年寄付して頂いている新鮮野菜(収穫させてもらっています!）、こちらの販売今年も大好評でした。

ドゥ・シルフィードさんによるクラリネット演奏も開催。コーヒーとシフォンケーキ(白根工房さんで販売中)、手作りマドレーヌで喫茶を楽しみながら聴けるプチ贅沢な一時でした♪



やまびこ工房の利用者さんが作った自主製品コーナー。新しい製品で刺しゅう入り手提げバックもお披露目。毎年購入に来て下さる方もおり、地域の方との繋がりを利用者さんの作品を通して実感します。

職員も地域の方とのコミュニケーションが新たな製品のアイデアを考えるきっかけにもなります。





# 自閉症について

## ～中学生の4日間～

毎年恒例となった相模原市立大沢中学校の職場体験が先日行われました。今回は男子生徒2名が5月25・26日と6月14・15日の4日間にわたり参加されました。

事前に職場体験に向けての打ち合わせがあり、初めてやまびこ工房に来た中学生達の姿は、どちらも緊張した面持ちでした。勉強や友達などの学生生活や、近頃流行している物事などの簡単な世間話から入り、少しリラックスしたところで今後のスケジュールと必要な持ち物などを確認し、打ち合わせを終えました。

打ち合わせを終えた二人に『自閉症』について尋ねると「わからない」、「今日初めて知った」と言われました。考えてみれば、私も同年代の頃は『自閉症』という言葉すら知らなかったと思います。『自閉症』という言葉が市民権を得た今日に至っても、未だにこころの病と思われることもあると聞きますので、『自閉症』と接したことのない中学生にとっては、知らなくても不思議ではないでしょう。せっかくの機会なので二人に当日まで少しでもいいから調べてくださいと宿題を出しました。

職場体験の4日間で、二人には皆さんが行っている作業の準備や課題の作成から、受注作業を一緒に行ったり、散歩に行ったりと様々なことを手伝っていただきました。今まで『自閉症』と接することがなかった二人は、儀式行動や繰り返し行動、スケジュールやタイマーを使用して活動していることなど、初めて接した『自閉症』という世界に驚きながらも、集中してしっかりと仕事をする姿に「凄い」と言い、ある利用者さんが二人に興味を持ち、笑顔で話し掛けてくれたと嬉しそうに報告してくれました。

最終日に再度『自閉症』について尋ねてみると「自分たちで調べた自閉症は、大きな声や音が苦手で独り言を繰り返す。コミュニケーションも苦手な人たち」で「ここにいる人たちも大きな声や音が苦手で、指で耳を塞いだり、ヘッドホン（イヤーマフ）をしていた。お仕事を誘ってもすぐにしてくれなかったり、何度も同じことを言ってきたりした。」でも「名前を聞かれたり、職員の人を呼んで安心しているようで、笑ったりしていたし優しかった。とてもおもしろい。」と、二人は私の出した宿題に彼らなりの答えを出してくれました。

最後に、将来どんな仕事をしたいかと質問すると、一人の生徒が少し考えてから「ここで働いてみたい」と言ってくれました。

すべての日程を終え、初めての仕事で何度も「疲れたあ～」と言っていた二人でしたが、その表情はやりきった充実感に満ちていました。4日間本当にお疲れ様でした。

(田辺)



## ヘルパー便り

私がKさんを担当させて頂き、もうすぐ1年になります。

Kさんのガイヘル計画を立てる際、Kさんは子どもの声や大きな音、人混みが苦手な為、その刺激をなるべく受けまいよう、Kさんが興味のある場所や映画プラス広い公園や広場での散策の2本立てであることが多くありました。しかし、花粉の時期はそうもいきません。日中、工房で過ごす際も鼻水が…。時折目の充血もあり、この時期はKさんにとって本当につらいものだったと思います。その為、屋内の静かな博物館などで1日過ごすガイヘルプランで外出して頂きましたが、担当したヘルパーに聞いてみると、興味はあまりなさそうだったとのこと。落ち着いて穏やかに過ごされていたとのことですが、加えて楽しんで過ごして頂けるのがやはりベスト！

今後は、ご家族やヘルパー、同じ作業班の職員とさらに連携を取り、Kさんの興味・関心があるものを見つけ、Kさんがより外出を楽しめるよう支援していきたいと思えます。

花粉症の方でも無理なく過ごせる公園や広場をご存知の方いらっしゃいましたら、ぜひぜひ教えてください！



(伊波)

## ナウシカ便り

～Going My Way それでも～

「なんか、いい風情だな」思わずつぶやいてしまうことが先日ありました。

個別のニーズに対応して、というのが私たちの基本姿勢です。ナウシカの皆さんもそれぞれのペースで過ごされています。暮らしの場面では、日中活動よりも活動と活動の間の空き時間の方がより多く発生します。長年ナウシカで暮らしてこられた皆さんは、ご自分のペースが出来上がっていますが、やはり個々の過ごされ方があり、長年同じ屋根の下に暮らしたとしても、一緒に何かをされる場面というのはほとんどありません。私たちもそのペースを守ることを第一として支援の組み立てをしていますが、最近、入居者のAさんは本やCDジャケット等を見ながら、それに関連する言葉を紙に書くことが多くなっています。とても綺麗な字で書かれているので、スタッフも後でお手本にしています。また、Bさんは決まった時間に漢字ドリルを大量に勢いのある字で書かれ、とてもよく集中されています。先日、たまたまAさん、Bさんのタイミングが一致することがあり、リビングのテーブルに向かい合って座り、熱心に書き物をされていました。お二人とも集中して書かれており、図書館で勉強中の受験生のようなでした。

それぞれに動かれている皆さんが時々美しいシンクロをされることがあります。そういった何気ない場面に出会えるのも、ナウシカ担当者の得な一面かもしれません。

(野田)

## 後援会のページ

日頃より後援会の皆様には「風の谷」をご支援いただき有難うございます。6月5日に地域交流バザーを開催致しました。朝は雨模様でしたが始める頃には殆ど上がり、沢山のお客様を迎えて盛況の内に無事終わることができました。これも皆様のご協力と心より感謝致しております。

最近アドラー心理学に関する本が話題になっている様なので、私も読んでみました。その中で過去や未来を思い煩うのではなく“いまここを真剣に丁寧に生きることが幸せに繋がる”と言う趣旨の言葉がありました。

私もハンディを持つ息子の親として家族全員が今日一日を楽しく幸せに過ごせるように努力しようと思っております。(難しいですが)毎日工房へ彼が出発する時に「楽しんできてね」と声を掛けます。彼も時には「楽しんでくるよ」と返事をします。そして機嫌良く帰ってきた時に一番幸せを感じます。それも工房の職員の方々が利用者の事を良く考え対応して下さっているからだと心から感謝しています。

梅雨に入りジメジメした日が続いています。風邪を引く人も多いとか、皆様にはくれぐれもご自愛下さい。

風の谷後援会会長 堀田脩司

平成27年12月8日～28年6月5日現在 (五十音順敬称略)

### 【新規個人】

(相模原市) 大島正義 大庭順子 崎宏紀子 原耕平 吉澤孝雄 (座間市) 田口賢二

### 【更新個人】

(相模原市) 安藤美由紀 石崎守 井上響子 井上進 大久保敬二 大久保秀俊 小川幸枝 荻原常寿 川島和章 菊池みどり 小原マサエ 小針徳枝 近藤幸子 齊藤多賀子 斎藤眞澄 清水悟 清水徹 菅照雄 鈴木秀美 高田晋 高橋ゆき江 高橋ユキ江 豊田幸男 中村成美 永山智恵子 縄島健一 野崎廣子 芳賀道子 萩原春夫 萩原莉恵子 原友作 古澤倫子 辺見祐二 堀田脩司 政野大 政野光廣 松本千枝子 水沼武 百田紀久男 山口彰一 山崎テル代

### (相模原市外)

新井靖数 佐藤つかえ 樋口里美 山井京子 (厚木市) 大澤宏二 上城洋一 工藤真弓 中塚正彦 蘭秀子 (座間市) 清水洋子 内藤美也子 (横浜市) 大久保禎 (秦野市) 水田敏弘 (高座郡) 竹花三枝 (町田市) 岩崎秀二 (国分寺市) 山田二三夫 (品川区) 守屋恵美子 (堺市) 日野朝子 日野資純 (静岡市)

### 【更新団体】

(相模原市) やまびこ会

### 【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 (有) 伸和トラスト ワーカーズキュービック相模原 ドゥ・シルフィード 木下謙三 鷺谷廣道 政野大 その他多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

### 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345